

二十一年度一般会計 二百五十七億円

交流センター設置条例は可決 二十二年度実施へ

3月議会が終了。20年度補正予算は雲南病院負担金2・2億円等増減で総額295億円余。21年度当初予算は総額257億1千万円。収入で合併後税率が統一された固定資産税は18億円弱、市たばこ税は1億7千万円、ゴルフ場利用税交付金が7百万円弱、入湯税2百万円、主財源の地方交付税は135億円余で昨年比4億円の増。

支出では土木費22億円の内、市道改良費4億円。みとやっこ祭など各地域毎のイベント補助金は百万円に統一。負担金では消防組合へ6億8千万円、雲南病院へ6億5千万円、環境衛生組合へ1億円余を支出負担。条例関係Ⅱ「交流センター条例」では条例の提出時期を巡って議論されましたが来年の実施までに十二分な住民説明を求める事を決議・要請し全会一致で可決。農政会議等から強い要請があった「雲南市食と農の市民条例」も全会一致で可決されました。



突然の工事凍結報道に困惑移転が完了し、工事再開が待たれる54号線の拡幅

費用対効果？ 工事凍結

国道54号三刀屋地内

3月31日付けの新聞に国道54号三刀屋地内の工事凍結が報じられました。見直しの波紋が広がりました。見直しの方法とされた費用便益比とは人や車の時間価値を基準にした計算方法で走行時間の短縮（走行経費の減少）を対象にして見直したものです。まさに効率のみ。この方法だと交通量の少ない田舎の道路などは改良できないようになります。今回も北海道や高知など過疎地域が凍結されています。地域づくりの視点や災害時の緊急道路と再考した決定を要望し早期の再開を求めていきます。次期会議は未定も6月頃開催か。

田部家の餅つき

吉田町田部家・その祖を紀州熊野の田辺に発すると言い、入道安西なるもの、文永年中（一二六四〜七四）吉田に移って郷長となった・とある。その十代子孫・彦左衛門が寛正元年（一四六〇）神夢を感じて砂鉄による鑪（たたら）吹き製の製鉄を始めたのでこれを田邊家初代とし鉄山元祖と称する。九代・安右衛門の時、田邊から田部に改め、十代の時松江藩主から「長右衛門」を賜り以後「長右衛門」が世襲されている。二十三代（朋之氏）は元島根県知事、二十四代（智久氏）は山陰中央テレビジョン社長・平成十一年没。二十五代・真孝氏は現東京フジテレビ勤務活躍中。「田部長右衛門」襲名は未定。代々田部家に伝わる行事に「餅つき」があります。毎年・年末二十八日、田部家関係者が集いにぎやかに五斗五升の餅が五升ずつ搗き上げられます。



長老・江角さんの名調子「田部餅つき歌」に合わせて「ヨイショ・ヨイショ！」のかけ声と共にご捣かれます。正面右25代・真孝氏。

皆で頂く田部家の「小豆雑煮」の味は格別です。年越しには御当主によって鏡餅・豆・干し柿・栗・米俵等が飾られ新年を迎えます。

雲南総合病院を市立化

雲南病院は一市二町による一部事務組合で運営されています。これまで交付税だけで賄われていたが平成十九年度、種々の要因で二億円の不足。二〇年度も雲南市から約七・八億円拠出しています。そのため二十年度に雲南市立病院化が検討されてきました。この度「公立雲南総合病院あり方懇談会」、市当局、病院で検討の結果、移行時期を平成二十三年四月、運営形態を「地方公営企業法全部適用」方式。基本方針に①医療の充実②高度先進医療機関との連携強化③健全経営などが示されました。

この運営方式のメリットは①事業管理者を置くことで責任の明確化や自立的経営が可。②予算、人事権の付与で組織・職員の弾力化が図られ機動性と柔軟性が確保されると言われます。移行まで2年間。病院組織の見直し、何より経営の健全化と医師・看護師確保。対応が急がれます。

編集後記

昨年改選では大変御世話になりました。お陰様で再選に加えて議長に就任させて頂きました。厚く熱く感謝です。選挙を通じて改めて雲南市の広さ、特に周辺部を中心に過疎・少子高齢化が急速に進む実情を体感しました。有害鳥獣被害も深刻。各課題に誠実に取り組んでいきます。眞